

「いまの代になってから金ばかり高くなって味は落ちた」。

よっぽどの恨みがあるのだから。どんなにいい地方都市でも最初に会った人の言葉が肝心である。愛想のいいタクシーに乗るともなかったような気がする。立場は人を他人行儀にする。いまの松浦市の教育長は今西誠司氏である。わたしとは親戚になる。今西氏の母親の智恵子姉さんが平田醬油屋のおばあさんの娘である。昌子姉さんや和

子姉さんの姉になる。星鹿の祖母の娘である母とは従姉妹になる。わたしと今西氏はふた従兄弟になるのか。星鹿で過ごした少年時代は「耕大兄ちゃん」「誠司ちゃん」と呼び合う幼なじみであった。

昨年、「東京松浦会」で友広

「わかる、わかる」とわかるを連発した。友広市長も同じような経験があるのかもしれない。

わたしも今西教育長も酒が好きである。また、今西氏が教育長になる前に松浦でよく杯を交わした。人前では「岡部先生」

## 身内はやりづらいい

郁洋市長に会うと「今西教育長とは親戚のごたるですね」と声を掛けてきた。「はい、そうですね」というと「身内が教育長ならばやり易かでしょう」と笑ってからかった。「逆です。身内はやりづらかもんです」と返答すると「わかる。それはわ

「今西先生」である。わたしのチームが松浦市で公演をした打ち上げの飲み会にも、市長と一緒に顔を出してくれる。

「郷に入っては郷に従え」。わたしもアフリカでは土地の人が作った酒を飲まされた。穀物を、口で飲んで吐き出して酒にするそうである。どぶろくであ

嫌がらずに飲んだ。土地の人は観察しているものである。文化ホールのこけら落としで「風と牙」をやったのはすでに書いた。その主人公、文武に秀でた美貌の吾妻姫を演じたのが無名塾の岡本舞さんである。シティホテルでパーティーがあり、たる酒が振る舞われた。岡本舞さんは「わたくし、これが大好きですよ」と言って升酒をぐいぐいとあおっていた。東京で飲んでも、まったく乱れない。タクシーで自宅まで送るが、自宅の前でくらくらとしただけですたすたと歩いて帰る。見事なものである。いったいに女優さんは酒が強い。しかし、岡本舞さんほどに酒が強い女優さんはいない。(松浦市出身)